

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

1 モニタリング状況（参考数値）

集計期間：令和2年7月20日（月）～令和2年7月26日（日）

指標		数値	前週	目安基準
(1)	直近1週間の新規陽性者数	65人	63人	—
(2)	直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数 (陽性者数/(153万人/10万人))	4.25人	4.12人	2.5人未満 ^{※1}
(3)	週当たりの陽性増加比 (当該週の陽性者数/前週の陽性者数)	1.03	1.17	<1 ^{※2}
(4)	直近1週間の感染経路不明者の割合 (感染経路不明者数/陽性者数)	62%	70%	50%未満 ^{※3}
(5)	市内医療機関における入院中の患者数 ^{※4}	55人	48人	—
(6)	直近1週間の陽性率 ^{※5} (陽性者数/検査実施人数)	5.38%	4.16%	—

これらの数値は、速報値として公表するものです。

- ※1 神奈川県警戒アラート指標の基準を準用
- ※2 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」）より引用
- ※3 神奈川県の再警戒モニタリング指標の基準を準用
(再警戒基準：新規陽性者数が10人以上の時、50%以上)
- ※4 7月26日（日）現在の入院者数（前週分は、7月19日（日）現在の入院者数）
- ※5 健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出（本市発表外陽性者も含む）

2 評価

7月20日（月）～7月26日（日）の市内における新規陽性者数は、65人（前々々週41人、前々週54人、前週63人）と、急速な増加はとどまっていますが、依然として微増傾向が続いています。週当たりの陽性者増加比は、1.17から1.03と低くなっていますが、その他の指標を含めていずれも「目安基準」を上回っているため、アラート状態ではありませんが注意は必要です。

また、現在のところは、川崎市内においては新型コロナウイルス感染症に対する医療も、一般の医療も落ち着いて行われていますが、できるだけ感染者数が増えないようにすること、また増えるかもしれないことに対しては、引き続き備えていく必要があります。

これまでのところ、一般の方の感染の多くは、広い空間や街の中などではなく、空気の流れの悪い、狭いところで多人数が一緒になって、大声で会話をしたり（歌ったり）、接触をしたりという状況で生じています。つまり、**感染の多くは、「三密の状態」で生じています。**できるだけこのような状況を避けることは、感染するリスク、感染を拡げるリスクを下げることになるので、これらの注意をしながら、日常生活を過ごしていただければと思います。またどちらかにお出かけになるときは、混雑する場所や時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされることをお勧めします。